



## ついに始まりました！ 令和4年度「子どもガイド養成講座」

菊陽町には豊かな自然や貴重な文化財が数多くあります。伝統と文化を尊重し、先人の残した貴重な文化財について学習することで、子供たちは菊陽町の良さを深く知ることができるようになります。そして、郷土を愛する心と学んだことを、誇りを持って話すことができる力を養成するために、毎年本講座を実施しています。今年の開講式は、6月10日（金）の6時間目に実施しました。上川教育長から受講者へ「帽子」が贈呈されました。また、本年度お世話になるのは、菊陽町文化財ボランティアガイドの会の松永政秋様、矢野誠也様、上村隆一様の3名の方々です。（子供たちはこれまでもお世話になっています）普段見慣れているはずの史跡も、その背景を知ることにより、より輝きを放つことになると思います。それが歴史の面白さだと思います。私も歴史が大好きなのですが、今年目標は「南郷往還をできるだけ長い距離たどってみる（高森までいけるでしょうか?! 多少涼しくなってからですね）」です。往還は、昔の人々の生活を支える道。いろいろな想像ができて楽しそうです！子供たちにも、もっと地元を好きになってほしいと思います。（写真は、教育委員会から帽子を受け取る3年生）



# 前途洋々

## 今年も楽しく！～「サウスくんデイ」縦割り班で実施！

児童間の親睦を深め、コミュニケーション能力の向上を図るために、従来、年に4回実施してきた「サウスくんデイ」の活動ですが、昨年度は、コロナ禍の影響で1回しか実施できませんでした。しかしながら、本校のような小規模校ならではのこの活動は、子供たちが一緒に活動するたいへん良い機会であり、笑顔で全員遊びに参加していたのが印象的でした。さて、本年度第1回目を6月9日（木）に行いました。今回は、給食と一緒に食べませんでしたが、縦割り班ごとに運動場でドッジボールや鬼ごっこを楽しみ、一体感を持つ時間となりました。年齢の違いにかかわらず、ともに過ごす楽しさやつながりあう心地よさを感じてくれたら何よりです。本校の子供たちは下の年齢の子供たちのお世話をよくしてくれます。そういったお兄さん、お姉さんの姿を見て、「自分が大きくなったらこうするんだな！」ということを感じているようです。子供たち同士も育ち合い、学び合っています。関わり合うことでしか得られないよさをしっかり感じてほしいと思います。最後の感想交流では、「久しぶりにドッジボールができて楽しかった」「（鬼ごっこで）一回もつかまらなくてうれしかった」などの声が飛び交っていました。なかなか感想が言えない1・2年生に、そっと言い方を教えてくれている5・6年生の姿も多くあり、うれしく思いました。2回目は何ができるか今から楽しみです。

大盛り上がり  
の  
ドッジボール



最後の  
意見交流



鬼ごっこの  
一休みは  
ちよつと休憩中



## 考えよう！ 人権問題①「正しいことを正しく伝える」

6月は年に3回ある人権月間の第1回目。子供たちは、日々、身近な学級やその他の場面において、様々な視点から人権尊重の意識を高める学びを積み上げていきます。なお、本校の人権教育の目標は「すべての教育活動を通して感性を豊かにし、自分の人権を守り、他者の人権を守ろうとする意欲・意識・態度を養う」です。私たちは、同和問題（部落差別）をはじめとする様々な人権問題の解消に向けて認識を深め、行動しなければなりません。最近ある研修会でドキッとするようなデータを見ました。他県のデータですが、「部落差別を初めて知ったきっかけ」について、学校の授業や講演会、行政の広報誌など「公的な情報源」から知った人よりも、家族から聞いた、近所の人から聞いた、友達から聞いた、メディアで知ったなど、私的な情報源から知った人が圧倒的に多いということでした。（75.8%）講演者の先生は、「最初の出会いがとても大切」と強調され、うわさやイメージなど本当ではないことがあっても本当のことのように伝えられ、「差別的に知ってしまうこと」が問題であると話されました。そのようなことを考えた場合、「正しく知り正しく伝える」ことの大切さ、「本当ではないことを無責任に流布する」ことの恐ろしさを改めて感じます。私たちは、子どもの人権感覚、感性の育ちに責任を持たねばなりません。科学的、合理的なものを見方を教えるのは私たち大人に負うところが大きいこと、自らの「ことば」に責任を持つべきであることを思い、身が引き締まりました。

